

## ～ 鴨川流域懇談会について ～

### ■開催趣旨

- 鴨川は、四神相応の思想から平安京の造営に深く関わり、以来、数々の歴史の舞台となり、歌舞伎などに代表される文化を育み、時には白河法皇の「天下三不如意」の一つにあげられるほどの暴れ川にその姿をかえ、千二百年にわたる京都の歩みとともにたえまなく流れています。
- とりわけ鴨川の治水を振り返ると、古くは平安時代において治水を担う「防鴨河使」が置かれたり、豊臣秀吉による洛中を囲む「御土居」の築造、また江戸時代には京都所司代による「寛文新堤」の築造など、数多くの治水事業が行われ、近年では、昭和10年の京都大水害を契機とした大規模な河川改修が行われ今の鴨川の姿があります。
- その後も三条・七条間の「花の回廊」をはじめ段階的に整備を進めてきたところですが、引き続き、多くの人口と資産が集積する京都市の中心を流れる川にふさわしい、安全で美しい鴨川づくりを計画的に進めていく必要があると考えています。
- 鴨川は京都の歴史文化に深くかかわり、北山や東山を望む美しい景観とともに山紫水明の京都の顔として多くの人々に親しまれ、それを取り巻く歴史的や文化的な観点からも、京都のまちに深く関わりのある川として、京都のみならず全国の多くの人々から関心を集めている川と言えます。
- このように京都の象徴とも言える鴨川の今後の整備について検討していくに当たっては、「治水」「利水」「環境」といったいわゆる河川の機能面だけでなく、その歴史性や文化性に着目しつつ、幅広い観点からの議論を踏まえることが重要です。
- このため、京都の川、自然、歴史、文化、産業、観光などに造詣の深い有識者からなる「鴨川流域懇談会」を開催し、鴨川を巡る様々な課題やその解決の方向性、さらには今後の鴨川のあるべき姿について幅広く議論を行うものです。

### ■懇談会委員

座長	中川博次	立命館大学客員教授、京都大学名誉教授
委員	嘉田由紀子	京都精華大学教授
	金田章裕	京都大学副学長
	杉江貞昭	鴨川を美しくする会事務局長
	田中真澄	鴨川の自然をはぐくむ会代表、岩屋山志明院住職
	中村弘子	漆工芸家 千家十職塗師第十二代中村宗哲
	新川達郎	同志社大学教授
	西村明美	柊家株式会社取締役
	村田純一	京都商工会議所会頭、村田機械株式会社代表取締役会長
	森谷尅久	武庫川女子大学教授
	吉澤健吉	京都新聞社編集局次長
		(敬称略、委員五十音順)
行政	京都府 土木建築部長	
	京都市 建設局長	